



notebook

浜松市 農林水産ノート

平成 29 年 3 月号

- ・ 農林水産情報発信WG(ワーキンググループ)がほぼ毎月配信します
- ・ ホームページやフェイスブックなど発信した情報を中心にまとめます

— 今号の目次 —

特集『浜松市の6次産業化事例をご紹介します』

台湾・台北でのイベント「建国花市」で浜松市農産物・食品のPRを行いました

第1回 グリーンレジリエンス大賞『グランプリ』受賞！！

東京浅草「まるごとにつぼん」で浜松フェアを開催しました

『笑顔つなぐ はままつのユニバーサル農業』が冊子になりました

「ユニバーサル農業シンポジウム in はままつ」を開催しました

浜松市役所 1F フロアでユニバーサル農業パネル展を実施しました

セルリー農家・川合邦知さん



【今号の特集】浜松市の6次産業化事例をご紹介します

浜松市は6次産業化・ブランド化をサポートしています

浜松市では、農林水産業者の育成や商工業との連携を通じた、ブランド化の推進を行う「農工商連携・6次産業化推進事業」を行っています。

こちらの事業では「浜松市未来を拓く農林漁業育成事業費補助金」を設けています。6次産業化やブランド化を進め、農林漁業の付加価値向上や新たな価値の創出、新規販路の開拓を目指す事業者をサポートしています。



あらためて6次産業化とは…？

農林漁業者（1次産業）が、農産物などの生産物の元々持っている価値をさらに高め、それにより、農林漁業者の所得（収入）を向上していくことです。生産物の価値を上げるため、農林漁業者が、農畜産物・水産物の生産だけでなく、食品加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）にも取り組み、それによって農林水産業を活性化させ、農山漁村の経済を豊かにしていこうとするものです。

「6次産業」という言葉の6は、農林漁業本来の1次産業だけでなく、2次産業（工業・製造業）・3次産業（販売業・サービス業）を取り込むことから、「1次産業の1」×「2次産業の2」×「3次産業の3」のかけ算の6を意味しています。言葉の由来は、東京大学名誉教授の今村 奈良臣（いまむら ならおみ）先生が提唱した造語とされています。



出典：農林水産省HP

浜松市内の6次産業化・ブランド化事例をご紹介します①

うなぎいもの乾燥粉末状製品開発（コスモグリーン庭好）

サツマイモは、浜松地域の特産物として古くから栽培が行われている作物です。こうした中、新たな付加価値を持ったサツマイモとしてコスモグリーン庭好さんがブランド化に取り組んできた「うなぎいも」は、養鰻場やうなぎを扱う料理店などから出るうなぎの頭や骨といった通常捨ててしまう部分を活用した「うなぎ肥料」を使って育てたサツマイモです。

この浜松産うなぎいもを使った様々な商品開発に結び付けるため、コスモグリーン庭好さんは浜松市の助成事業を使い乾燥粉末状製品の開発を行いました。サツマイモペーストを乾燥して粉末状にすることで、パンやクッキーなどの焼き菓子に利用しやすいものとし、販路の拡大や新たな需要に対応するための取組を行いました。今では認知度が高まり、うなぎいもを使った様々な商品を市内外で見かけるようになりました。浜松の新しいお土産品としても親しまれています。

昨春、南区の卸商団地にオープンした「うなぎいも王国カフェ」（南区卸本町 50）では、うなぎいもを使ったスイーツやたくさんのお土産品を楽しんでいただけます。



浜松市内の6次産業化・ブランド化事例をご紹介します②

地域交流を通じた地域資源の販売促進・ブランド化（須部商店）

北区都田町に製造工場を構える須部商店さんは、約140年前から豆腐を製造販売している老舗の商店です。また、都田地域はみかんやブルーベリーなど果樹を中心に農業が盛んな地域で、意欲的な生産者さんたちが様々な農産物を生産しています。

こうした地域の特産物の販売促進・知名度向上を図るため、須部商店さんは浜松市の助成事業を活用して、地元農産物を使ったデザートや大豆商品、健康ドリンクなどを新たに製造する設備やアンテナショップ（店名：勘四郎）（北区都田町6515）を設けました。地域の農業組織である丸浜柑橘農業協同組合連合会さんと連携して青果物や加工品を販売し地産地消を進めるほか、加工品の製造体験イベントやセミナーを催すなど、地域における交流と情報発信の場となっています。

豊かな自然の中、現在たくさんのお客さまで賑わうアンテナショップでは、大豆を使用した惣菜やデザート、旬の農産物など、地域産の安全安心でおいしいものが並びます。また、地域の栄養士と連携したセミナーや、旅行関係企業との連携によるノルディックウォークのイベントの開催など、分野を越えた事業連携にも積極的に取り組んでいます。



浜松市内の6次産業化・ブランド化事例をご紹介します③

天竜材（FSC 認証材）PR 空間の創出（永田木材）

浜松市北区引佐町で昭和14年に創業し、4代にわたり製材業を営む永田木材さんは、天竜杉・天竜檜の丸太の仕入れから製材加工まで一貫して行っています。

日本三大人工美林のひとつに数えられる「天竜美林」から生産される木材は「天竜材」として知られています。また、本市の森林は環境に配慮した適切な森林管理に対して認証されるFSC森林認証の取得面積において全国トップレベルです。

こうした天竜材のブランド価値を地域の消費者により一層伝える場を作ろうと、永田木材さんでは浜松市の助成事業を活用し、天竜材のPR展示やセミナー、イベントなどを行うことができるセミナールーム（北区引佐町横尾1146）を建設しました。地元建築士によって設計されたセミナールームは、木材がふんだんに使われ、木のぬくもりをたっぷりと感じられる空間です。天竜材の良さを五感で体験できる場を創出するほか、天竜材製品の展示や、消費者向けの天竜美林の歴史に関するセミナー、木材業界の次世代人材育成講座などを開催し、持続可能な森林と林業のための取組を展開しています。

また、昨年11月には、市内外の消費者を招き木材に親しむイベント「ナガモクマルシェ」を開催するなど木材をきっかけとした地域の交流の場としても発展を続けています。



台湾・台北でのイベント「建国花市」で浜松市農産物・食品のPRを行いました



今月、台湾の台北市内で開催されたイベント「建国花市」で、本市農産物・食品のPR及び試食・試飲の提供が行われました！

こちらは、3月4日（土）、5日（日）の2日間、浜松市観光・物産PRイベントとして、台北市民が多く訪れる花市場のイベントステージを中心に行ったものです。

浜松市からは、うなぎいもの加工品やJAみっかびのみかんジュース、日本酒花の舞などの試食・試飲を提供し、マーケティングを実施しました。台湾の方々には添加物を使用していない食品への関心が非常に高く、参加された事業者のみなさんも手ごたえを感じておられました。安全・安心でおいしい浜松の農産物の魅力を感じていただけたのではないかと思います。

また、今月18日（土）からはじまる「浜名湖花フェスタ」のPRにあわせて、浜松産スイートピー、スプレー菊、ランタンキュラスの展示やフラワーアレンジメント教室が行われ大盛況でした。



ジャパン・レジリエンス・アワード 2017

第1回 グリーンレジリエンス大賞『グランプリ』受賞！！



一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会(会長:NTT(株)三浦惺取締役会長)が主催するジャパン・レジリエンス・アワード 2017「第1回グリーンレジリエンス大賞」の表彰式が3月15日有楽町朝日ホール(東京都千代田区)で行われ、全国の自治体や企業、NPO 法人など21社・団体の取り組みの中から、本市の「浜松版グリーンレジリエンス」が最高賞のグランプリを受賞しました。「浜松版グリーンレジリエンス」とは、FSC 森林認証制度に基づく持続可能かつ適切な森林管理と、天竜材(FSC 認証材)を活用した新事業創出や木材利用の拡大などを通じて、森林の多面的機能の維持・拡大と産業振興を同時に達成し、地方創生を実現する取組です。

表彰式には市長が参加し、山本公一環境大臣と三浦惺会長から賞状とトロフィーを受領しました。

【市長コメント】

「『浜松版グリーンレジリエンス』の取り組みが高く評価され大変光栄に思う。今回の受賞は、今後の本市の林業・木材産業の振興政策の大きな励みになるもので、今後グリーンレジリエンスの先進都市として我が国のグリーンレジリエンスのリードしていきたい。」

※『グリーンレジリエンス』

自然資本を活用して地域の防災・減災と産業振興を同時に進めていく活動のこと。



東京浅草「まるごとにつぼん」で浜松フェアを開催しました



3月4日（土）・5日（日）の2日間、東京浅草の商業施設「まるごとにつぼん」で、浜松フェアを開催しました！

今年度2回目となる浜松フェア、今回は「日本の春は井伊直虎ゆかりの地浜松から」をテーマに、直虎に関するパネル展示や、赤備えの甲冑体験、講師の田辺一邑さんによる直虎と家康に関する独演会など、直虎で盛り上がる浜松市を大いにPRしました。

また、「井伊直虎まるわかりクイズラリー」では、正解者に浜松の特産品「はるみ」をプレゼントしました。はるみを受け取った参加者のみなさんからは「初めて見た」「大きくておいしそう」「はるみはおいしいからうれしい」など、嬉しい感想をいただきました。

2日目には、「ふしぎな花俱樂部おおはら」のご協力により、浜松の特産品であるガーベラやストックなど浜松の花を使った押花による「オリジナル絵はがき」制作体験を開催しました。



色とりどりの花を使ったオリジナルの絵はがきが出来上がると、お友達同士で自慢し合ったりして、参加者にとって非常に楽しい体験となったようでした。

屋外スペースでは、北区三方原で農業生産を行う「農+（ノーティス）」による新鮮な野菜の販売のほか、花の舞酒造や浜松土産協会との協力による浜松市のおいしい農産物や加工品の物産展も開催しました。

このほかにも、浜松の名産品が当たる抽選会や浜名湖花フェスタのPR、浜松産ガーベラのプレゼントなどを行った今回の浜松フェア、大盛況のうちに幕を閉じました。今回のフェアで浜松の魅力にふれた首都圏の方に、ぜひ浜松を訪れていただきたいですね。



「笑顔”つなぐ はままつのユニバーサル農業」が冊子になりました



『笑顔”つなぐ はままつのユニバーサル農業 -農業と福祉のいい関係-』を発行しました。

ユニバーサル農業とは、ユニバーサル=普遍的な、全体の、という言葉が示すように誰もが参加できる農業という意味です。

近年、農業分野における担い手不足と、福祉分野における障がい者の職域開拓・雇用促進といったそれぞれの課題解決を図るため、「農福連携」の取組が全国的に広がっています。

浜松市では、平成 17 年度より「浜松市ユニバーサル農業研究会」を発足し、農業の多様な担い手の育成支援策として農福連携の推進を行ってきました。

今年度、浜松市HPとこちらのフェイスブック「いいら！」にてシリーズでお送りしてきた『笑顔”つなぐ はままつのユニバーサル農業』では、浜松市内で農福連携に取り組む方々をご紹介してきましたが、このたびこの内容が冊子となりました。

農業者のほか、福祉事業所、企業や医療など様々な立場の9人のインタビューが掲載されています。浜松市役所 6 F の農業関係課カウンターのほか、各区役所の区振興課で配布されていますのでぜひご覧ください。

※浜松市ホームページでも PDF データを掲載しています。

笑顔”つなぐ はままつのユニバーサル農業

検索



「ユニバーサル農業シンポジウム in はままつ」を開催しました



3月6日（月）、地域情報センターで、「ユニバーサル農業シンポジウム in はままつ」を開催しました。

毎年開催しているこちらのシンポジウムですが、今年は東京・埼玉など関東地方や九州・山陰地方など全国の農業・福祉・企業関係者にご参加いただき、会場一杯の盛大なシンポジウムとなりました。

今回は基調講演として、埼玉県で農業参入されたアルファイノベーション株式会社代表取締役・山田浩太さんにご講演いただき、自社の農業・福祉・商業の連携による事業モデルについてご説明いただきました。

また、第2部では農業と福祉に関する先進国であるオランダでの取組や、市内でのユニバーサル農業に関する成果報告、第3部では精神科クリニックの医師による精神障害や雇用についての解説などがあり、農福連携を進める上での幅広い知識を得られる機会となりました。

ご参加いただいた方の中には、障がい者雇用を進めている農業者の方や、また職域開拓を目指す特例子会社の関係者の方も多く見られ、目的を同じくするみなさんのより良い情報交換の場にもなったかと思います。

こうした機会をきっかけに、農業と福祉のいい関係作りが一層広がっていくといいですね。



浜松市役所 1F フロアでユニバーサル農業パネル展を実施しました



3月1日（水）～24日（金）の期間、浜松市役所1階で浜松市のユニバーサル農業を紹介するパネル展を実施しました。

展示では、今年浜松市が発行した『笑顔つなぐ はままつのユニバーサル農業』に掲載された市内の農福連携に取り組む9人の方のインタビュー内容が印刷された大型パネルが並び、足を止めてじっくりご覧いただく来庁者の方で賑わいました。

アンケートでは、「みなさんととても生き生きとして頼もしく感じた」「未来の日本の食の安全のために期待したい」「商業施設や市内の学校などでもPRし若い世代にも伝えてほしい」「こうした市民に対する広報で街に活力を与えてほしい」といったたくさんの声をいただきました。農業や福祉の関係者だけでなく、こうしたみなさまからの理解が、取り組んでいる方々への後押しになります。農福連携に関わる様々な方のこれからの活動に期待したいですね。





FSC

www.fsc.org

100%

FSCの管理された
森林資源を使用し
ています

FSC C103704

セルリー農家・川合邦知さん

独特の香りとシャキシャキとした歯ざわりが特長のセルリー。国内における代表的な産地は長野県と静岡県ですが、静岡県内での生産の多くを占めているのが浜松市です。

全国でもトップクラスの生産量を誇る浜松のセルリー生産は、昭和 18 年に東区の豊西地区からはじまりました。その後、西区の神久呂地区や伊佐見地区などへ産地は広がり、生産量が大きく増加していきます。

このように浜松地域で栽培が盛んになったのは、昭和 25 年の朝鮮戦争により需要が高まったことがきっかけです。昭和 28 年には、「清浄そ菜栽培地」として認定を受け、産地としての認知度は一層高まりました。昭和 43 年の静岡国体開催時には、昭和天皇へ浜松のセルリーが献上されています。

現在、とびあ浜松農業協同組合セルリー部会の会長としてセルリー生産に携わる川合邦知さんに、お話を伺いました。



■ 高度経済成長期の中で発展してきた浜松のセルリー生産

浜松のセルリー生産は、ここ豊西地区が発祥の地です。当時よりこの豊西地区には意欲的な生産者が多く、様々な作物が作られていましたが、農家の生活を豊かにするためより商品価値の高い作物を作らなければならないという強い志のもとで導入されたのがセルリーです。昭和 20 年代から生産が増加していき、浜北、神久呂、伊佐見、三方原地区などへと産地が広がっていきました。

私は、セルリー農家に生まれ、父の跡を継いでセルリー生産を続けてきました。父の代の頃は今と違い、セルリーに根が付いた状態で木箱に入れて出荷されていました。現在のように根切りをし、ポリ袋に詰めて、段ボールで出荷する形に変わったのは昭和 37 年になります。その翌年にはセルリ



ーを中心とした「浜松洋菜協議会」が設立され、共選・共販・共計の出荷体制がスタートしました。

私が農業を継いだのはちょうど高度経済成長期の頃にあたります。「質・量ともに日本一」を合言葉に、周りの農家も毎年のようにハウスを新たに建てて規模を拡大していた時代で、産地としての生産量も年々大きく増加していました。

■全国で高い評価を受ける浜松のセルリー

浜松のセルリーは「コーネル619」という品種です。セルリー生産がはじまった以降、産地として品種の選定や形質改善にいろいろと苦勞を重ね、現在のおいしいセルリーが作られてきました。浜松のセルリーは、クセが少なく筋張ってなくて食べやすいのが特長です。シャキシャキとした歯ざわりや独特の香りもととても良く、また、何といっても美しい、高品質なセルリーとして市場でも大変高い評価をいただいています。

国内でのセルリーの主産地といえば長野県と浜松地域ですが、春から秋にかけての夏場は長野、秋から春にかけての冬場は浜松と出荷時期がはっきりと分かれており、それぞれの産地のセルリーが市場を通して全国の食卓に届けられています。温暖な気候のもと、施設栽培によって丁寧に作られる浜松のセルリーですが、長年の努力によって確立された全国トップレベルの栽培技術は、篤農家や農協・研究・行政機関の技術指導員など多くの方々の努力によるものです。



■市場評価に応える品質の維持を

とびあ浜松農業協同組合のセルリー部会は、後継者や新規就農者も育っていると思います。こうした高い技術をしっかりと伝えていくために、様々な世代の生産者たちが学ぶことのできる勉強会や視察研修を行い、知識の習得を図っています。また、やはり農業には経験が大切なことです。世代を超えて交流できるこうした場はとても大切で、みんなが積極的に技術を共有できるような部会として取り組んでいるところです。

共選・共販・共計出荷の中で必要なのは、生産者の技術と想いの維持です。産地として高品質なセルリーを生産し、質・量ともに市場の評価に今後も応えていくことが大切で、意識改革がまだまだ必要な部分もあると感じています。部会長という立場で厳しいことを言わなければならないこともありますが、そうした産地一体の取り組みこそがこれからの産地を支えていくものだと思います。



■ベテランと若手が一緒になって盛り上げる産地へ

セルリー農家は家族経営が主体です。私も父と母がまだ現役で、ともに農作業に精を出しているところですが、周りの農家で三代目にあたる若い世代が農業を継ぎ、家族で頑張っている姿を見ると頼もしく感じます。私たちに教えられることがあれば何でも答えていきたいですし、今後も次代



を担う若い生産者たちの力になれるようにできる限りのことはしてあげたい。しっかりと伝え、しっかりと学んでくれれば、高品質なセルリーがちゃんとできます。これからも技術を持ったベテランと積極的な若い農業者たちが一緒になって、この歴史あるセルリー産地を盛り上げていきたいと思っています。



ホームページでもご紹介しています。
「東区常光町・セルリー農家 川合邦知さん」

検索は、 

